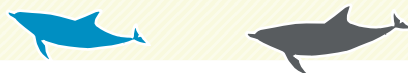


## 覚えてみよう！識別しやすい白斑のあるイルカたち

ミナミハンドウイルカの個体識別を行う際には、体表に見られる傷跡や白斑、背ビレや尾ビレの欠損などを手掛かりにします。中でも、水中でイルカを観察しているときに、特に目に飛び込んでくる特徴は、海の青色に映える「白斑」です。今回は、遠くからでも識別できるような大きな白斑のあるイルカたちをご紹介します。



#30

♀・アダルト

観察歴：1996年～

ニックネーム  
リップ

20年以上も前から確認されている個体。体の右側、背ビレの後方にある大きな「キスマーク」型の白斑が特徴です。賀島列島での観察記録もありますが、ほとんどが父島列島での確認です。マダムとも呼ばれています。



#73

♀・アダルト

観察歴：2002年～

ニックネーム  
クラゲ

体の左側にいくつもの白斑が目立つ個体。そのうちの 하나가「クラゲ」の形をしています。メインの利用海域は父島列島ですが、時々、賀島列島にも出現します。出産経験もあります。



#287

♀・アダルト

観察歴：2014年～

ニックネーム  
TATOO

体の左側、背ビレの後方に大きめの白斑が一つあるのが特徴の個体（#30リップは逆側です！）。父島列島のほか、母島列島で確認されたこともあります。2020年には初めて子供を連れているのを確認しました。



#296

♀・アダルト

観察歴：2014年～

ニックネーム  
ハハジマ

体の右側に大きな白斑がいくつもある個体。そのうちの 하나가、母島の形に似ていることから「ハハジマ」というニックネームになりました。父島列島と賀島列島で確認されています。2015年にはハシナギイルカの子供を連れていたこともありました。

## ホエールウォッチング自主ルール遵守のお願い

12月から5月は、ザトウクジラの来遊時期となります。ザトウクジラのウォッチングにあたり、いつまでも自然なクジラの姿を観察できるように、次に掲げる自主ルールの遵守にご理解ご協力をお願いします。

- クジラから300メートル以内を減速水域とする。
- クジラから100メートル以内を侵入禁止水域とする。
- クジラの進路や行動を妨げない。
- クジラのほうから100メートル以内に接近してきた場合は、低速で離れるか停船状態とし、進入禁止水域から脱するまでこの行動をとる。

自主ルールの  
詳細はこちら